

登録日 2022/12/27

レジメン名 BRE031

腫瘍名 乳がん

申請医師 乳腺外科

投与スケジュール

GEM+Pertuzumab+Tmab				21日毎 × PDまで			
				1コース		2コース	
				1	8	15	22 ... (Day)
①	デキサート	6.6 mg	点滴 15分	↓	↓		↓
	生理食塩水	50 mL					
②	生理食塩水 (前投薬フラッシュ用)	50 mL	点滴 5分	↓			↓
③	パージェタ	420 mg	点滴 30分	↓			↓
	生理食塩水	250 mL					
	初回投与量: 840mg、2回目以降投与量: 420mg 初回60分投与、2回目以降30分に短縮可能						
④	生理食塩水	50 mL	点滴 5分	↓			↓
	(パージェタ用フラッシュ)						
⑤	トラスツズマブBS	6 mg/kg	点滴 30分	↓			↓
	蒸留水	20~40 mL					
	生理食塩水	250 mL					
	初回投与量: 8mg/kg、2回目以降投与量: 6mg/kg 初回90分投与、2回目以降30分に短縮可能						
⑥	生理食塩水	50 mL	点滴 5分	↓			↓
	(トラスツズマブ用フラッシュ)						
⑦	ゲムシタピン	1000 mg/m ²	点滴 30分	↓	↓		↓
	生理食塩水	100 mL					
⑧	生理食塩水	50 mL	点滴 5分	↓	↓		↓
	(ゲムシタピン用フラッシュ)						

注意事項

【適応】 ・パージェタ+トラスツズマブ+化学療法の治療歴がある進行、再発乳癌における三次治療以降
【使用上の注意】 ・パージェタおよびトラスツズマブは、病理結果にてHER2蛋白陽性者に限る。 ・パージェタおよびトラスツズマブは、初回投与の認容性が良好であれば、2回目以降の投与時間は30分間まで短縮できる。 ・パージェタおよびトラスツズマブ投与の際には、心エコーによる心機能を確認する。 EF値の基準は、適正使用ガイドを参考とする。 モニタリングの頻度は、通常の患者では12週毎、無症候性心機能障害者では6~8週毎に行う。
【投与延期してから再開する際の用量】 ・パージェタ : 前回投与から6週未満 ⇒ 420mg、 前回投与から6週以上の場合 ⇒ 840mg(次回以降420mg) ・トラスツズマブ : 前回投与から6週未満 ⇒ 6mg/kg、 前回投与から6週以上の場合 ⇒ 8mg/kg(次回以降6mg/kg)
【減量及び中止基準の参考値】 ・臨床試験、適正使用ガイドを参考とする ・パージェタおよびトラスツズマブは原則、減量しない

参考文献

- 1) Cancer Sci, 113, 3169-3179 (2022).
- 2) 乳がん診療ガイドライン2022年
- 3) パージェタ、トラスツズマブ、ゲムシタピン添付文書
- 4) パージェタ、トラスツズマブ適正使用ガイド
- 5) Cancer Science, 113, 3169-3179 (2022).
- 6) JAMA Network Open, 2, e1916211 (2019).